

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 10日から13日にかけて、日本付近に横たわる前線が西日本、東日本付近から東北地方付近へ北上する。
- 12日から14日にかけて、太平洋高気圧が日本の南への張り出しを強める。
- 13日から14日にかけて、高気圧が千島近海をゆっくり東へ移動する。

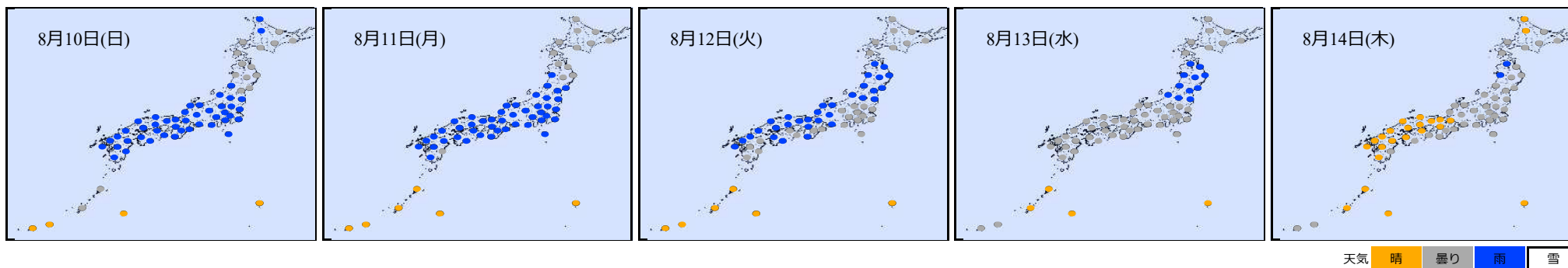
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 12日頃にかけては、西日本から東日本日本海側にかけて前線の影響で大雨となる所があり、前線の活動の程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

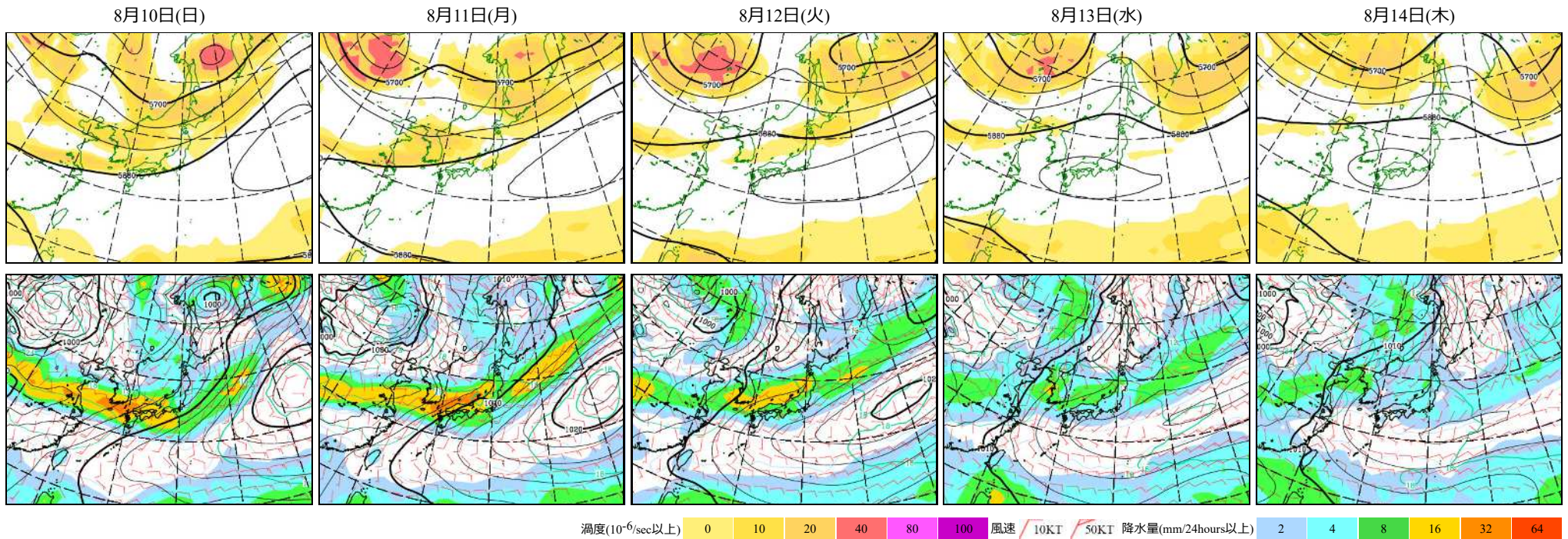
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

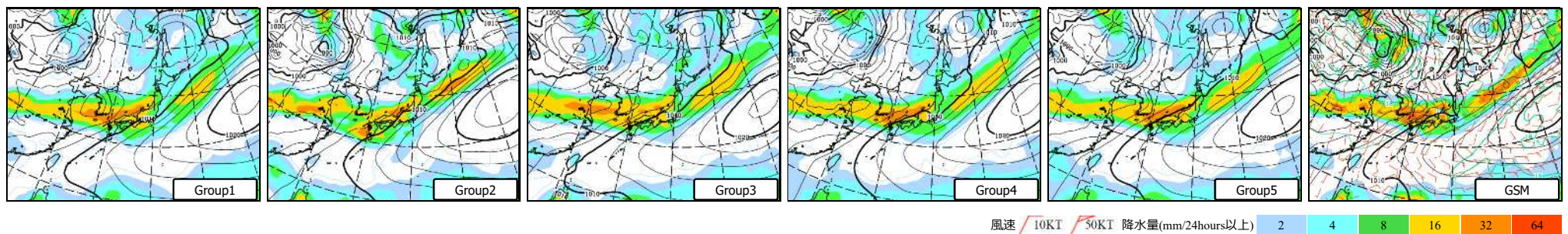


- 北日本と東日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 西日本は、10日から12日は曇りや雨となるが、13日から14日は晴れや曇りとなる。
- 沖縄・奄美は、晴れや曇りの日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月11日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、期間の終わりは日本の南に張り出す太平洋高気圧と千島付近の高気圧が共に強まる傾向となった。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の終わりは5700mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。